

# J A 新津さつき

## これまでの実践内容と成果

### 1. 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組み

#### ○ 担い手支援室を設置（専任TAC2人体制）担い手農家を定期的に訪問

平成28年3月より、担い手支援室を開設。現在は1人当たり60件の担い手を訪問しています。意見、要望を受け、畑作業の省力化として、新潟農業応援ファンド等を活用した農機の導入を推進。またWeb農業簿記システムによる青色申告・経理支援や担い手支援端末・Z-BFMによる労働力の経営改善などを提案しました。今後は大規模農家のJA離れ防止や、自己改革の実践が求められている中で、担い手に応じて最適な支援メニューを提案します。常勤役員の同行訪問などにも取り組みます。



TACが常勤役員と担い手を訪問

#### ○ 特産野菜（エダマメ：さつき茶豆かおりちゃん・あまみちゃん、サトイモ：里のいもこ、プチヴェール：雪こだち、イチゴ：越後姫）の作付面積拡大

管内のエダマメの作付面積6.6ヘクタール、サトイモの作付面積が7ヘクタール（平成29年度）ブランド特産野菜の生産量を増やすとともに、販売先をさらに開拓して、生産者手取りの増大に努めます。

また、プチヴェール「雪こだち」、イチゴ越後姫は、機能性表示食品に認定されました。これからもJA新津さつき産特産農産物の付加価値を高めるさまざまな取り組みを実践していきます。

#### ○ 水稲育苗ハウス利用の施設園芸作付システムを推進

水稲育苗期以外の時期の効率的なハウス利用のため、園芸（野菜等栽培）や養液栽培の研修等を実施しています。生産者収入の増大を目指しています。

ハウス利用園芸取り組み生産者 68名  
養液栽培 6名



トマト養液土耕栽培研修会を実施

#### ○ 花木直売施設「花夢里にいつ」のイベント回数増加と提案型店舗づくり品揃えの充実により販売金額アップ

#### ○ 野菜直売所3店舗（ベジランドにいつ・新鮮組・農家の店）の会員増加を図り、生産者の所得を増加

定期的に各種のイベントを行い集客に努めるとともに、生産者向けの指導会を行い、店舗の品揃えの充実に努め、集客増を図っています。これからは生産者収入の増加と、消費者の地元農業への理解、ファンづくりを進めていきます。

（平成30年1月末現在の会員数）

ベジランドにいつ 155名  
新鮮組 45名  
農家の店 34名



ベジランドにいつでの餅つきイベント

- 水稲の土づくり資材（ケイ酸質資材）の施用拡大や各種指導会による良品質米生産に取り組み、消費地から選ばれる産地を目指す。

J Aが土づくり資材（ケイ酸質資材）の散布を請け負う取り組みを行っています。（平成29年度実績224ヘクタール）また、行政の助成措置の活用を進めています。

時期ごとに稲作指導会を各地区で行い、タイムリーな情報発信を行っています。

水稲の成長状況を把握するための手助けとして、葉色看板の設置、葉色計の活用を推進しています。



水稲指導会（大安寺にて）

- マーケットインに基づく販売強化を行うため、トップセールスの実施（関東4社、関西1社、北海道1社【17回】）、卸への販路拡大と有利販売、契約販売の推進を行う。

## 2. 地域の活性化に向けた取り組み

- 昔ながらのお米づくり教室・野菜収穫体験を実施し、消費者の皆さんの農業への理解を図っています。

新潟市指定文化財、満願寺はさ木並木にて行っている昔ながらのお米づくり教室（5月田植え、9月稲刈りはさかけ体験）、苺「越後姫」もぎ採り、サトイモ「里のいもこ」収穫体験を行っています。春の田植え体験では、兵庫県のコープこうべの職員の皆さんが産地交流として、田植えを体験しました。また、9月の稲刈り、はさかけ体験で収穫された「はさかけ米」を秋葉区内の学校給食用に贈呈しています。



田植えイベントに参加したコープこうべの職員

- 管内の小学校の学校田等の農業体験授業に職員を派遣し、子供達の農業への理解を図っています。
- 学校給食への地元農産物の出荷を増大。（ばれいしょ、たまねぎ・実績4,460千円）

### 自己改革完遂に向けた取り組み

- 担い手支援室が常勤役員を同伴し、担い手農家訪問を行い担い手の意見要望をJ Aの運営に生かす取り組み。
- 消費地へのトップセールスを行い、農産物の有利販売に繋げる。